

ベルリンとドイツ国境

神奈川県公立中学校教諭

ドイツの国境を眺めるときに現在のベルリンの位置に注目すると見えてくるものがある。

1 第一次世界大戦前

19世紀初頭のドイツはプロイセンを中心にした北ドイツ連邦と南部のバイエルン(南ドイツ諸邦)から形成されていた。普仏戦争後、統一ドイツ結成の交渉が行われ、1871年ドイツ帝国が成立した。

北部は北海とバルト海に面し、南部はイタリアやオーストリアと山脈で区切られている。西には商業国として栄えたオランダがあり、フランスとの国境に位置する地下資源に恵まれたアルザス・ロレーヌは絶えず争いの種となっていた。東はロシアに接し、ここでは独立を願う民族が息を潜めて機会をうかがっていた。

この頃のベルリンはドイツのほぼ中央にあったといえる(右地図、上)。

2 第一次世界大戦から第二次世界大戦へ

戦間期にオーストリア=ハンガリー帝国が解体されてハンガリーやチェコスロバキアが独立。さらにポーランドが旧ロシア領とドイツ領をあわせて独立した。ドイツとロシアの間には多様な民族の国が縦一列に並んだようにみえる。

東側の領土がけずられたため、ベルリンの位置はドイツの東よりになる(右地図、中)。

過大な賠償金の支払いと世界恐慌による経済危機にあえぐドイツは、ドイツ系住民が多く住む東側の国に領土の割譲を要求し、侵攻していった。

3 第二次世界大戦後

敗戦したドイツは東西に分断され、これによりベルリンは東ドイツ領のほぼ中央に位置することになる(右地図、下)。1948年のベルリン封鎖、1961年の「ベルリンの壁」建設により、ベルリン自体

が東西に分断され、さらにソ連が西ベルリンを封鎖し、物資の輸送が途絶えると、西ベルリンは孤島ようになってしまう。

そこでアメリカやイギリスは物資を空輸して西ベルリンの住民を守ろうとした。

このベルリン大空輸作戦で使われたのがベルリンにあるテンペルホーフ空港(2008年閉港)であった。第二次世界大戦中にヒトラーによって改修されたこの空港が、皮肉にもドイツの人々を救うことになったのである。

4 分裂から統一へ

1989年に「ベルリンの壁」が崩壊し、翌年東西ドイツは統一を果たした。「ベルリンの壁」が壊される場面は何度も世界に報道された。こうしてベルリンは東西冷戦の象徴として語られつづけるのである。

ドイツが統一されるとベルリンはその首都となり、再びドイツの東のはずれに位置することになる。

ソ連の解体でドイツの東に多くの国家が生まれ、EUの拡大によって国境の意味が薄くなってきている今、地理的にヨーロッパのほぼ中央にあるドイツはヨーロッパ地域のひとつの要になろうとしているといえるだろう。



「中学校社会科地図 初訂版」p.35②